

# 東京歴教協町田支部ニュース 2024年4月号



発行責任者：町田支部 竹下 忠彦 ([akadake2016@gmail.com](mailto:akadake2016@gmail.com))

## 4月例会を 4月20日(土)に行いました

地元の小学校の入学式が4月8日(月)にありました。今年は久しぶりに満開の桜の花のもと校門をくぐっていく新入生の姿をみることができ、感慨深いものがありました。しかしこの小学校は数年先に市の統廃合計画により廃校の運命にあります。今年の新入生は40名だそうです。予定されていた60名よりかなり少ない数です。市の計画を知った保護者の一部が、統廃合計画該当校以外の学校に子どもを入学させた可能性が大きいです。

例会を去る4月20日(土)に開催しました。場所はいつものように山崎団地の喫茶「ノーマライゼーション」。参加者は駒田和幸、竹下忠彦の2名。近況・情報交換と報告を行いました。

## 駒田報告：《町田の近現代史を探る》

### 1. 町田デジタルミュージアム問題

「東京歴教協ニュース」490号(2024年1月号)でレポートした「町田デジタルミュージアム」に掲載されている年表の多数の誤りについて、作成にあたった自由民権資料館の担当者は修正案をつくり、4月はじめには正しい年表に差し替えると話されていた。しかし、4月20日現在、いまだ修正されていない。どうなっているのか不明だが、5月になっても差し替えがなされていないようであれば、追及したい。

それにしても2年間も誤りだらけの年表を放置している市教委(自由民権資料館)の責任は重い。

### 2. 府中に「9条の碑」、町田でも「憲法9条の碑をつくる会」が始動

府中市南町に建立され、5月7日(火)午後1時から除幕式を行う予定とのこと

### 3. 「歴史総合」「日本史探究」の教科書記述問題について

9条に関連して、「歴史総合」及び「日本史探究」の教科書で日本国憲法の三大特色の一つである「戦争放棄」がどう表現されているか、確認してみた。

まず、「歴史総合」の教科書では、採択率1位の『明解歴史総合』(帝国書院)が「平和主義」との用語を使っている。このほか「戦争放棄」ではなく、「平和主義」としている教科書には、『新選歴史総合』(東京書籍)、『詳解歴史総合』(東京書籍)、『高等学校歴史総合』(第一学習社)、「高等学校新歴史総合」(第一学習社)がある。驚いたことに明成社の『私たちの歴史総合』は「戦争放棄」としている。

他方、「日本史探究」の教科書では、採択率が50%を超えている『詳説日本史』(山川出

版社)が「平和主義」としている。そのほか『高校日本史』(山川出版社)、『高等学校日本史探究』(第一学習社)が「平和主義」としている。

また、「平和主義(戦争放棄)」と表記している教科書もあり、「歴史総合」では、『わたしたちの歴史』(山川出版社)、「日本史探究」では『精選日本史探究』(実教出版)がその例である。

では、「平和主義」という表記の何が問題なのか。まず、そもそも日本国憲法には「平和主義」という表記はない。前文に「平和」という言葉が4回出て来るが、「平和主義」ではない。また、「平和主義」とは多様な意味づけが成り立ちうる概念用語であり、安倍晋三政権のときの「積極的平和主義」といった事例も出て来る始末である。こうなると、ジョージ・オーウェルの『1984年』で、「真理省」の建物の壁面に書かれていた「戦争は平和なり」と同様の事態である。要する厳密に定義して使用するならともかく、そうでなく漠然と「平和主義」というだけではあいまいなのだ。他方、「戦争放棄」は第二章の題名が「戦争の放棄」となっているだけでなく、意味するところもかなり明確である。その意味でも、明確に「戦争放棄」と書くべきではなかろうか。以上、問題提起として。

なお、いつごろから「平和主義」というようになったのか、手元に古い教科書がないので後日に期したい。また、「戦争放棄」をなぜ「平和主義」と言い換えているのか、その理由もいつか究明したい。

## 竹下報告：《町田の地域教材を探る》

### 1. 「町田の米軍機墜落事故追悼60周年の集い」を開催しました。

日時：4月6日、場所：町田市民フォーラム 参加者80名

1964年4月5日、沖縄県の米軍嘉手納基地から神奈川県厚木基地に向かう途中の米軍海兵隊のジェット偵察戦闘機が、町田市中心部の商店街に墜落し、炎上した。それから60年。犠牲者を追悼し、二度と悲惨な事故がおこらないことを願って、上記の集いが開催された。今回私は、実行委員会の実行委員として関わった。

ジャーナリストの布施祐仁さんが「繰り返される米軍機墜落事故が問いかけるもの—主権がなければ平和も安全も守れない」と題して講演した。

また、和光小学校元教員の藤田康郎さんは「軍は人の命を守るのか?~小学生と考えた米軍ジェット機墜落事故~」と題し、和光鶴川小学校で行った町田の墜落事故を語り継ぐ特別授業を報告した。

本集会の最後に実行委員会代表の岩崎俊男さんは「事故を風化させない印にするためにも、平和の母子像をみんなに見てもらえる公有地に設置させてほしい」と訴えた。

### 2. 冊子「町田の米軍機墜落事故から60年 1964—2024」の刊行

実行委員会では、事故発生から60年にあたりこの悲惨な事故の記録＝冊子「町田の米軍機墜落事故から60年 1964－2024」を作成した。冊子には、負傷者の証言、救助活動をした消防団員らの証言を交え、事故の様子や市の対応、市民の抗議運動などが記されている。冊子をご覧になりたい方は、竹下まで連絡をください。

~~~~~  
**次回例会：6月15日（土）10:00～12:00 木曾山崎コミュニティセンター玄関集合**

町田市外から参加予定の方は1週間前に竹下に連絡をください。送迎の相談に応じます。

連絡先：町田支部 竹下忠彦（090-8100-1038）